

不二製油株式会社 2024 年度第 4 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2025 年 5 月 13 日（火） 10:00～11:30		
・出席者	社長執行役員	最高経営責任者 CEO	大森 達司
	代表取締役		酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高執行責任者 COO	田中 寛之
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. チョコレート用油脂 CBE の販売は好調に推移しているが、2025 年度の見込みは。

A. 2024 年度は販売数量が米州を除き各エリアで堅調に推移した。2025 年度については、カカオ価格が高止まりしており、需要の強さは継続すると考えている。生産のボトルネック解消や原料調達体制の強化により需要への対応を進める。また、価格改定による収益の押し上げも期待している。

Q. 植物性油脂事業、業務用チョコレート事業（ブラマーカカオ特殊要因除く）は、2025 年度減益計画となっているが、要因は。

A. 植物性油脂事業においては、2024 年度上期に主原料であるパーム油などの南方系油脂の価格が低位安定して推移し、効果的に原料調達を進めることができ差益が得られた。しかし、2024 年度下期以降、南方系油脂の価格が上昇しているため、2025 年度は原料差益は、2024 年度ほどは見込めないと想定している。

業務用チョコレート事業においては、2024 年初頭からカカオ価格は高騰したが、高騰前に調達した原料を使用する中で、カカオ価格の推移を見ながら先行して価格改定を実施したため利益を確保できた。しかし、2025 年度は年間を通じて高価格の原料を使用することを見込んでおり、利益の減少を見込んでいる。

Q. ブラマーの構造改革を進めることで、今後カカオ特殊要因の発生は抑えられるのか。

A. 構造改革の一環として、カカオ加工事業の適正化を進めている。カカオ製品の生産は自社使用分を中心とし、外販分を削減することで、カカオの取扱量を減らし、リスクの低減を図る。また、先物限月乗換コストが継続して発生するが、新契約においては価格転嫁ができているため、カカオ特殊要因による損失は最小限に抑えられると考えている。

Q. ブラマーの課題に対して、不二製油の組織体制変更に伴うグループガバナンス強化は理解したが、ブラマー内部においても、ガバナンス強化に向けた取り組みが必要ではないか。

A. カカオ相場高騰によりブラマーの課題は顕在化し、ブラマー内部においてもガバナンス強化が必要と認識している。日本からの専門人員の追加派遣や基幹システム導入によるデータ可視化を進めるなど、全社の重要課題として取り組んでいく。

Q. ブラマーは買収以降損失が続いているが、今後のブラマーの在り方をどう考えるか。

A. 米国でコンパウンドチョコレートでビジネスを拡大させることを見込み買収を実行した。足元では大きな損失が出ており、ブラマーの在り方はあらゆる選択肢を持ちながら議論しているが、まずは構造改革による収益性の改善を進める。

以上